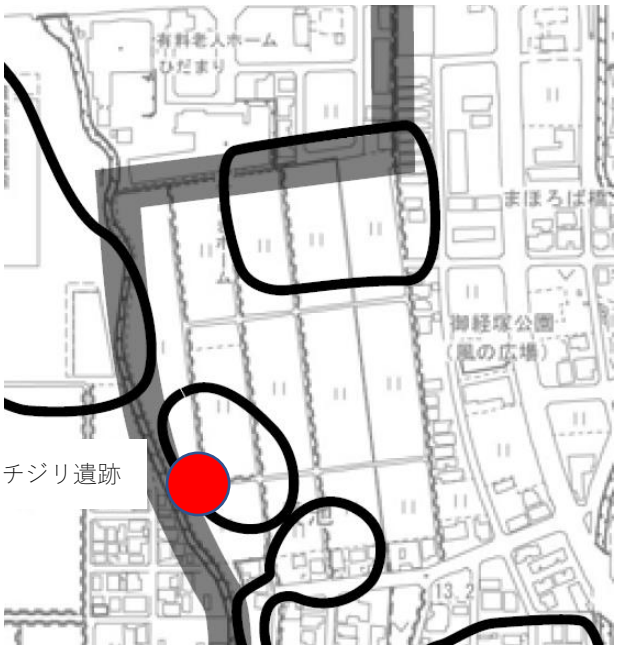
令和５年度発掘調査速報

長池カチジリ遺跡（ながいけ）

調査面積	940 ㎡
調査期間	令和５年４月３日～令和５年７月 31 日
遺跡の種類	集落跡
遺跡の時期	弥生、古墳、中世
主な遺構	溝、土坑、小穴、井戸
主な遺物	弥生土器、珠洲焼（すずやき）、加賀焼（かがやき）、中国製磁器（青磁（せいじ））、碧玉（へきぎょく）製品
概　　要	

長池カチジリ遺跡は、長池土地区画整理事業に伴い野々市市では初の発掘調査を行いました。

調査地の大部分は旧安原川が頻繁に氾濫する場所であったことが分かったほか、弥生時代の溝や川跡、中世（鎌倉～室町時代）の井戸や溝などを確認しました。特に弥生時代の川跡からは弥生時代後期後半から終末期の土器や碧玉製品の破片などが多数見つかっており、周辺に集落が存在したことがうかがえます。中世では井戸から青磁碗や加賀焼の破片が出土したほか、大型の溝が見つかっています。



遺跡の所在地

川跡から見つかった弥生土器

中世の井戸（断ち割り）